

●学習の流れ・時計
学習の流れカードや矢印は、児童が話し合っている内容を確認したり、話し合いの流れを見通したりすることを助けます。時計は、計画的に話し合いを進めるための目安にすることができます。

●賛成・反対マーク等の活用
賛成・反対マークは、話し合いの状況を可視化し、全体像を捉える上で有効です。また、決定マークを貼ることで、みんなで決めたという意識をもてるようになります。

●短冊の活用
短冊に意見を書き黒板上で操作しながら話し合いを進めることができます。事前に書いておく場合と、意見が出されたときに黒板記録が記入する場合があります。活用の仕方としては、話し合いで似たような意見が重なったり、たくさんの意見が出されたりしたときに、短冊で意見を分類・整理することで比べやすくなります。また、決定されなかった意見の短冊も、振り返りで活用することができるため、板書に残しておくようにしましょう。

話し合いの基本的な流れ ※各項目の詳細については目次を参照

- ① はじめのことば
- ② 計画委員会の紹介
- ③ 議題の確認
- ④ 提案理由やめあての確認
- ⑤出し合う
提案理由に沿って、自分たちの意見を出し合う。
- ⑥くらべ合う
提案理由に沿って、賛成・反対・改善策などを出し合いみんなでよりよい意見を比べる。
- ⑦まとめる
提案理由により沿っているものを折り合いを付けて合意形成を図る。
- ⑧ 決まったことの発表
- ⑨ 話し合いの振り返り(学級会カード)
- ⑩ 終末の助言(担任より)
- ⑪ 終わりのことば

担任としてのポイント！

- ・学年の実態に応じて教師の適切な指導の下、児童の**自治的・実践的**な場とする。
- ・最初は担任が計画委員をやってみせ、徐々に児童に託していくとよい。

途中で助言・指導に入る場合は・・・

- ・人権上問題のある発言があった場合
- ・児童の自治的範囲を超える話し合いになった場合(時間割や持ち物など)
- ・話し合いが混乱している場合 など

★話し合いを方向づけたり、決定付けたりする助言は控える。